

ぼくは安保法案に反対です

小学生 阪本 翔

(奈良県 10)

安保法案に反対です。理由はアメリカの戦争に日本がまきこまれる可能性があるからです。もしかは毎年の戦争に行くこととなるかも知れないからです。

この前、国会議員が安保法案に反対する学生のことを「戦争に行きたくないじやん」といって自分中心の考え「と発言しました。だからあなたが行きますか」と思います。自分は戦争に行くつもりです。安倍首相も、自分は戦争に行かなくていいと思ってるはず。だから、昔の意見を聞かずに安保法案を国会で決めようとしているのです。

ぼくは、戦争になる可能性を入りために日本を「永世中立国」にしたらいやと思えます。もし戦争がおこると、昔の戦争で亡くなった人たちの努力はなくなります。だから安保法案に反対です。

戦死の父 残した電報の意味

高校教員 小田 弘平

(島根県 71)

国会前で安保法案反対デモをする「SEALDs」に集う学生さんらの姿に感動している。私の父は1944（昭和19）年4月、西太平洋のトラック島の南海域で戦死。29歳、旧海軍の潜水艦乗組員だった。父は内地出航の前日、自分の兄に短い電報を打った。「明日出航する」とだけ。父が残した最後の言葉だった。私は父が出発する3週間余り前に生まれた。父は私の顔を知らない。私も父の顔を知らない。父と私をつなぐのはこの電報だけだ。私は電報の

真意を考え続けてきた。

先日の本紙記事は特攻隊を

目指した元予科練（海軍飛行予科練習生）の方の思いを書いていた。特攻で死んだ仲間が生まれ変わったように感じたという。その思いをまっすぐに受け止めた学生さんたち。記事を読んで、私は父の電報の真意が分かった気がした。父はもっと生きたかったと伝えてようとしたのではない。国のため死ぬのが唯一の生き方の時代に、どう生きるか、父は問いを残してくれた。私は殺し合うのではなく他者を愛する生き方をしたい。

シールズの若者2人が来た

無職 加藤 敦美

(京都府 86)

特攻隊を目指した元予科練（海軍飛行予科練習生）の拙稿「学生デモ 特攻の無念重ね涙」（7月18日）がツイッターなどで広がったと聞く。死んでいった特攻隊員たちが生まれ変わって国会前で安全保障関連法案に反対する学生デモ隊となったように思い、感謝の気持ちを書いたものだ。先日、東京からその「SEALDs」の男女学生さんが自宅まで来て下さった。

若き輝くお二人。難聴の私に、男子学生さんは紙に書き示してくれた。「投稿を読んで泣きました。自分たちも時代が違ったら特攻に行ったかもしれないし、死んだかもしれない。他人が書いた投稿と思えませんでした。今、動かすにはいられません」

山口県防府市にあった海軍通信学校から特攻基地へまるで遠足にでも行くようにはしゃぎ、続々と出発していった予科練仲間たちが鮮明に目に浮かぶ。安倍政権の憲法破壊、戦争路線の行き着く先は何か。憤怒のデモを続ける学生さんたちはそれを見抜いていると感じた。死んだ仲間たちは今あなたたちと共にある。